

原島 江里さん (49歳)

営農地: 八女市矢部村北矢部
主な農産物: 茶



「やるぞ」と思ったら、とことんやります!

● 就農のきっかけ

就農のきっかけ? お茶農家と結婚したからです。

久留米近郊で造園業を営む家に、3姉妹の長女として誕生した原島さん。「小学生の頃まで田んぼがあって、田植えの手伝いは楽しかった記憶があります。」と笑顔。しかし、まさか農業が自分の仕事になるとは、思いもよらぬ展開だったようです。

飲料メーカーに勤務していた頃、八女市矢部村で茶の生産と販売を営む夫と出会い、結婚。「奥深い山の中での農業なんて、全く想像つかなかったから、飛び込んでいけたのかも」と今度は苦笑い。学生時代にバレーで鍛え、体力には自信があったものの、義母が茶園の斜面を駆け上る速さに最初はついていけず、愕然としたそうです。

「茶園が徐々に拡大されていき、収穫の時期は手伝いの人も多くて、嫁いだ直後からとにかく忙しかった。それが就農した頃の記憶です。」と語ってくれました。

● 私の今~就農後の道のり~

手紙から、 パソコン→写真→インターネット

原島さんが茶農家として歩みだして10年くらいの頃、夫とよくこれからの経営について話をしたそうです。「山手のお茶は、平地に比べるとどうしても一番茶の時期が遅くなって、価格的に不利なんです。だから、平地に出て面積を拡大していくのか、山手の良さをアピールして小売りの増加を狙うのか、まさに経営方針の岐路に立ってました。」と話します。

「我が家のお茶に自信あり、という想いは、夫も私も強いものでした。そこで、手紙を書くことにしたのです。こういう環境と想いで育ててます、いかがですか、って。でも、なかなかうまく表現できなくて。何度も何度も書き直しては、知り合いに少しずつ出していたんですよ。」と原島さん。

根気強く蒔いて行った種は、徐々に芽を吹きはじめ、小売の注文が増えだします。

すると原島さん、今度は当時まだ珍しいインターネット販売に

取り組み始めます。

「今から20年前、インターネットが身近になりだす前からでした。もともと電気製品いじるのが好きで(笑)、パソコンを購入して夜な夜な勉強です。メールリストで知り合った仲間にも教えてもらいながら、ホームページを作ったんですよ。」と、そのパワーには驚かされます。きっと全国的に見ても、農産物のネット販売としてはパイオニア的な存在だったでしょう。そんな原島さんですから、写真も、パッケージも、物流も独学で勉強。その頑張りは見事に花咲き、今では小売が収益の大きな部分を占めるまで結実しました。

● これからの夢、目標

次世代に、いかにつないでいくのか

「夫の理解はもちろん、いろんな人に支えられてきたから、たくさんのチャレンジができたんだと思います。これからは、自分がというより、次いかに繋ぐかってことに意識が変わるのかな。この『お茶の千代乃園』をどうしていくのか。就農したての息子と話しながら、まさにこれから考えていこうと思っています。」と原島さんは語ってくれました。



プロフィール

- 家族構成 / 本人、夫、母、子4人
- 営農年数 / 約25年
- 耕作(経営)面積 / 5.6ha
- 販路 / 産直通販・JA共販

就農を考えている女性へ ♥

女性に対してというより、もしその女性と一緒に農業をやろうとする男性がいる場合は、男性の方に伝えたいことがあるかも(笑)。とにかく一緒に学んで欲しい。どうしても農村には男性社会の一面があるかも知れないけど、情報を常に共有化する意識が必要と思う。農業って、女性も羽ばたける可能性が高いことを、男女ともに忘れないで欲しいのです。